THE JOMO SHINBUN　1999年（平成11年）12月31日（金曜日）（日刊）

上毛新聞

発行所 〒371-8660 前橋市古市町1-50-21
上毛新聞社
電話 027(254)5920
(編集部)254-9933 (広告)254-9944
(販売)254-3111 (総務)254-9955
(印刷部)254-9985 (出版)254-9966
(スポ)254-9936 (報道)254-9984
(報整)254-9977 (報企)254-9911
© 上毛新聞社 1999年

2000年問題

年越し目前に緊張感

県 きょうから24時間警戒

コンピューターが誤作動する恐れのある西暦二〇〇〇年問題を迎えた年越しを直前に控え、県内の行政機関や企業などでは緊張感が高まっている。県はきょう三十一日から、二十四時間の警戒態勢を敷き、越年時には百三十二人を動員し、各市町村や社会インフラなどに関係する民間事業者なども、特別態勢で万一に備える。多彩なミレニアム（千年紀）イベントも企画される中、今年の大みそかは例年以上に期待と不安が入り交じった一日になりそうだ。

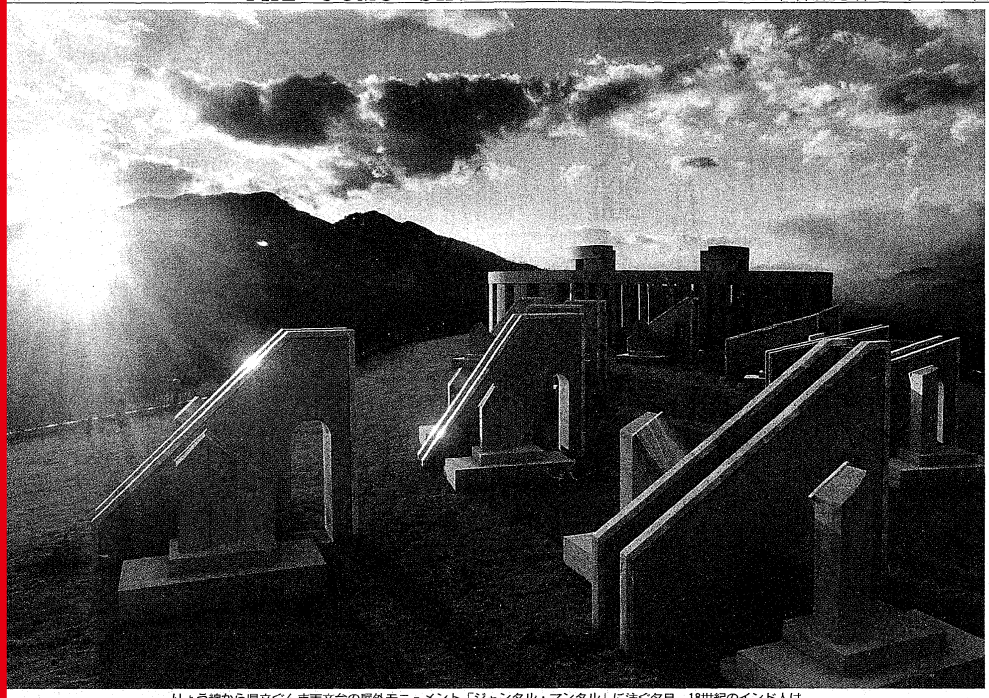
県は二〇〇〇問題に対処するため、年末・年始の休みに入った二十九日から、通常の勤務時間帯に職員を待機させ、警戒に当たってきた。三十一日午前八時半から五日午前八時半までは、二十四時間待機に態勢を強化、延べ千三百八十九人が動員される。

特に問題発生が予想される一日午前零時の越年時には、県内の情報収集やシステムの稼働状況の確認、県民への情報提供などの業務が集中する。各市町村も越年時には、職員の泊まり込みや自宅待機などで不測の事態に備える。

また、電気、ガス、水道、通信、公共交通機関などの社会インフラ事業者や金融、医療機関なども、三十一日から一日にかけては、職員を増員するなどして同問題に対応。このほか、独自の警戒態勢を組む民間企業などもあり、"年番"を前にピリピリしたムードになってきた。

問題発生予想日は年末年始のほかに、一月四日（仕事始め）、同三十一日（二〇〇〇年最初の月末処理）、三月三十一日（年度末処理）などがある。

県からの問い合わせには、県コンピューター西暦二〇〇〇年問題対策本部（☎027・226・2334）が対応する。



りょう線から県立ぐんま天文台の屋外モニュメント「ジャンタル・マンタル」に注ぐ夕日。18世紀のインド人はこの影を使って日付や時間を計った＝高山村中山

1999ラストシーン

新時代へ希望の光

激動の1年に幕

明暗交錯するニュースが駆けめぐり、さまざまな分野で変革を迫られた一九九〇年代を象徴するような、流転の一九九九年だった。

新しい時代への道標づくりは、今なお手探り。未来への不安と希望を抱きながら、激動の一九九九年が静かに幕を閉じようとしている。

七月、高山村中山に全国オープンした県立ぐんま天文台。野外には十八世紀のインドの巨大日時計群「ジャンタル・マンタル」とイギリスのストーンヘンジを模した巨石群「ストーンサークル」のモニュメントがあり、太陽の光を受けながら悠久の時を地面に刻む。

一五三・八㍍の新県庁舎も九月に稼働した。県民の交流拠点として開放されており、本県の新ランドマークとして定着しつつある。

県内が最も沸き立ったのは八月の相生第一高校による夏の甲子園全国制覇だった。県勢ことごとは初の快挙。全員が県内出身の「上州っ子」チームだったことも、県民に自信と刺激を与えて目に入った小渕恵三首相の手腕に期待がかかる。二十世紀最後の来年は二〇〇〇年代の幕開け。新しい時代に向けた飛躍のチャンスが完全燃焼で合意するまで、住民の間には不安の目が続いた。

邁華イヤーでもあった。四月の統一地方選では新しい県議と市町村長・議員が決まり、七月の知事選では小寺弘之知事が三選された。

長引く不況も暗い影を落とした。キリンビール高崎工場や日産ディーゼル工業群馬工場の撤退が明かになり、雇用情勢の悪化は高校生の就職難などを直撃。二年ぶりに有効求人倍率が一を切るなど、厳しい状況が続いた。

一方、県内の観光業は、「ぐんまこどもの国」（渋川市）の入園者が過去最高を記録するなど、明るい話題がかりでではなかった。

オウム真理教の進出問題が、県内の市町村を揺るがす事態に発展。年末、教団側と合意するまでの経過は、県民の不安を増幅させるものとなった。

県内の市町村は、「地方分権一括法」の施行で、国からの権限の大幅な移譲を受け、自治体の責任と自己決定、自己責任の時代を迎えた。

「地方の時代」を実感させる出来事として、県内の市町村長・議員が、県議と市町村長・議員の一斉選挙（四月）を経て、新しい顔ぶれに変わったことが挙げられる。

県内の市町村は、「地方分権一括法」の施行で、国からの権限の大幅な移譲を受け、自治体の責任と自己決定、自己責任の時代を迎えた。

「地方の時代」を実感させる出来事として、県内の